

5月・6月の管理ポイント

平成21年4月25日



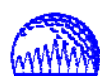
株式会社

トモグリーンケミカル

ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第99号

5月、6月は梅雨から夏に向けての準備として、グリーンの根を伸ばしておく時期です。今年は猛暑で7月、8月は厳しい環境が予想されます。土壌の透水性、通気性を高めて、育ちやすい環境を整えていきましょう。



レボ (REVO)

5月の生育期、6月の排水対策に...

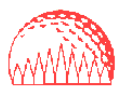
5月は芝生の根をしっかりと伸ばす大切な時期です!!

レボにより表層を乾き気味、土壌中は気相をしっかりと確保した状態にキープし、芝生の発根を促しましょう。土壌中を乾燥気味にして、根に軽いストレスを与えたほうが根が下方まで伸びていきます。

散水のポイントとしては、毎日軽く散水を行なう場合よりも(根域にストレスがかからない)、回数を減らして一度に十分な散水を行なった方が(根域に軽いストレスがかかる)、根域が深くなります。

6月は、梅雨のため土壌が飽和状態になります。レボ処理で余分な水を排水させましょう。

使用量：レボ 2ml/m² 散布水量：200ml～1L/m² 散布回数：1ヶ月に1回



光合成細菌・サッチ・リムーバー

サッチ層の除去には...

梅雨前の更新作業時に光合成細菌とサッチ・リムーバーを組み合わせることによって、サッチを効率よく分解し、通気性の良いグリーンをつくりましょう。

光合成細菌 使用量：1～2cc 1ℓ/m²散布 月1～2回

サッチ・リムーバー 使用量：1～2g/m² 0.5ℓ/m²散布 使用回数：月1～2回

(合成細菌の取り扱いには研究会制です)



コ・エンザ

梅雨時期のストレスのかかった芝生には...

梅雨時期は日照不足のため植物内の活性が低下し、芝生が軟弱になります。

コ・エンザ処理により、植物内の酵素反応を潤滑にし、弱った芝生の回復に努めましょう。

使用量：ベント1～2g/m² 1ℓ/m²散布 コウライ3～4g/m² 1ℓ/m²散布



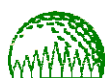
スティンガーFL・ショットガン

害虫発生にあわせて...

(新発売)

今年の静岡県のカブモノトラップの調査では、4月上旬にはカブラヤガ成虫(タマナヤガの類似種)が確認され、中旬以降にシバツトガ、スジキリヨトウ成虫が確認されました。GW以降のグリーンの防除には、食害が多くダラダラ発生が予想される場合は新規化合物による長期残効型殺虫剤スティンガーフロアブル、比較的食害が軽微である場合はショットガンを使用し、状況に応じて使い分けましょう。

使用量：ショットガン 1000倍 0.3ℓ/m²散布 スティンガーFL 4000倍 0.2ℓ/m²散布



グリーンメカ・マリンパワー

日照不足を補うために、芝生や有用菌のえさとして...

梅雨は日照不足にともない、芝生の光合成が低下していきます(糖類生成量減少)。

黒糖、各種ミネラルの豊富なグリーンメカで不足しがちな糖類を補ってあげましょう。

光合成細菌とマリンパワーを組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いどぶ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌を定着させましょう。

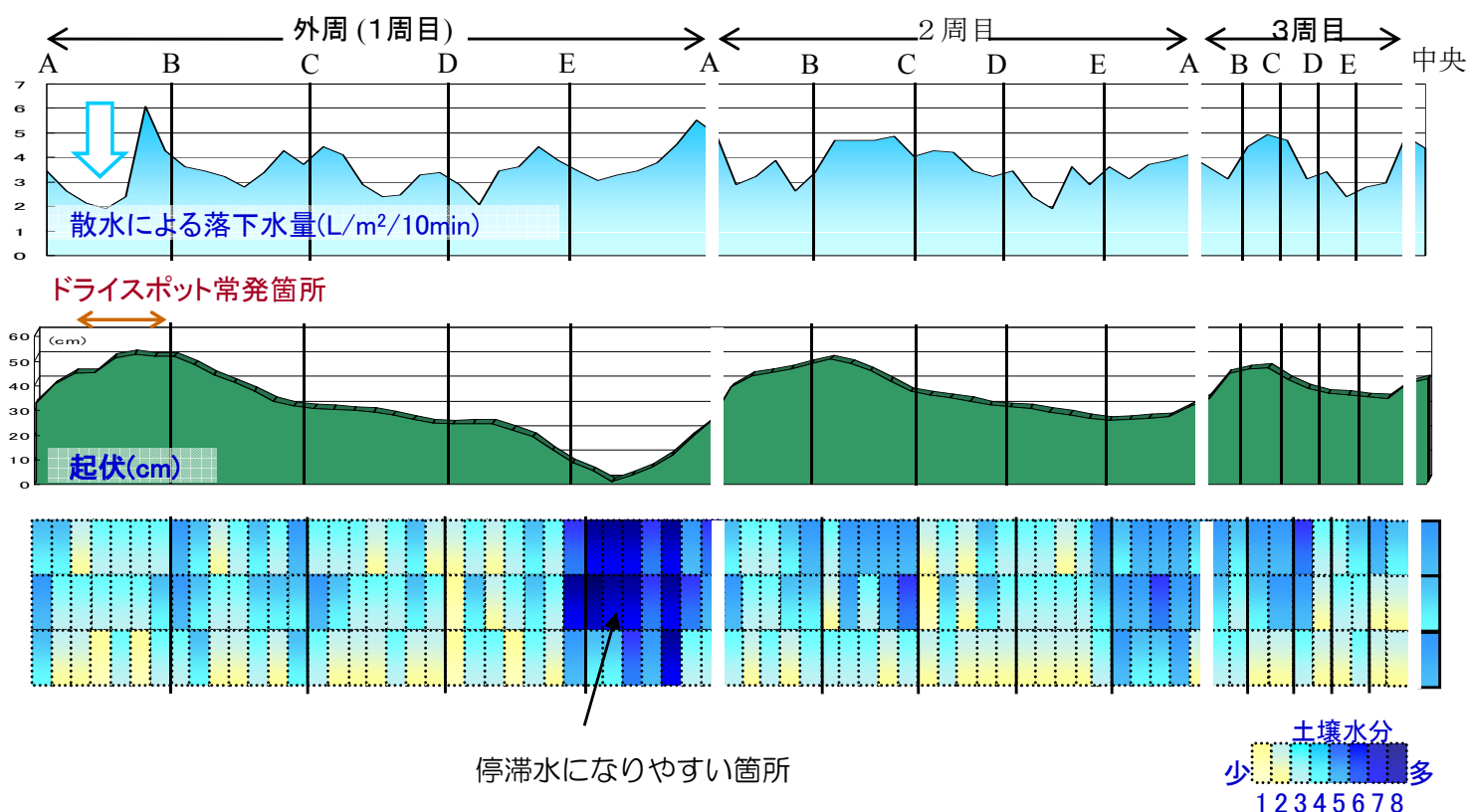
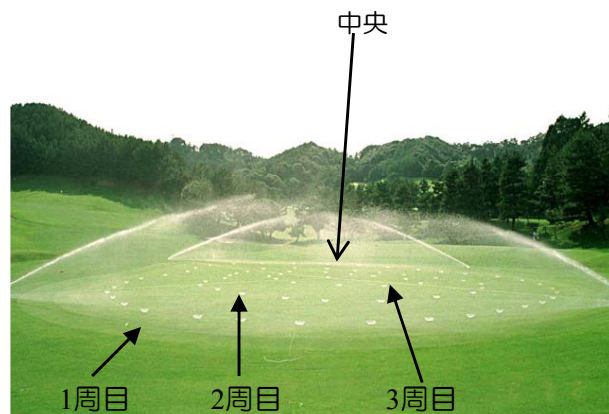
使用量：グリーンメカ 5～10ml/m² 1ℓ/m²以上 マリンパワー 2～4ml/m² 1ℓ/m²以上

グリーンの起伏が 土壌水分に及ぼす影響

グリーンの起伏(アンジュレーション)は、プレーの難易度を高めるための必要な傾斜ではありますが、管理する側にとって、芝刈りはもちろん均一な肥培管理、水分管理を行う上で非常に難しい問題となります。

今回は、スプリンクラーで散水した場合、グリーンの起伏がどれほど土壌水分の分布に影響を及ぼすか紹介します。

グリーンの起伏調査とスプリンクラーの散水量調査



上段：落下水量：多い箇所と少ない箇所の差が倍以上あり、スプリンクラーの設置位置や稼動時の風向きなどが影響していると考えられる。

中段：グリーンの起伏

下段：土壌水分：低い箇所は水が溜まりやすい傾向があり、ドライスポット常発箇所はストレスのかかりやすい外周で尚且つ高い箇所であった。

土壌中の水分コントロールは、薬剤の効果維持、肥培管理上大切な要素です。余分な停滞水を除き、均一な水分分布を維持することがターフクオリティを高める近道です！！